

その他の医療保健業における起因物なしを起因物とする死傷災害発生事例（2017年）

2017年発生月	時間	死傷災害発生事例	年齢	労働者規模
3	16~17	事業場の所在地において介護職員として勤務を始め、利用者を車いすやベッドから移乗させる作業を1日平均10回程度行っていたところ、強い痛みを感じはじめた。	25~99	50
3	18~19	院内にて、診察チェア周辺の診療器具を片付け持ち運んでいた際、つまずいてバランスを崩し、床に左手をつき親指の付け根を内出血した。	37	1~9
4	16~17	移乗介助の研修時、上司の指示のもと、ベッドの上で様々な姿勢をとる練習をしており、骨盤を前傾させるような姿勢をとっていたところ、痛みが徐々に強くなった。（腰椎ヘルニア既往歴あり）	22	500~999
5	13~14	患者様の歯のクリーニングの補助のため、バキュームを持っている際に患者様の口が大きく開かず、口が開くように押さえていた。その状態が長時間続いた後、左手指の付け根や手の平、甲に痛みが出てきた。その後は痛くなったり、良くなったりを繰り返していたが、左手をかばっていたせいか痛みのなかった右手も痛みだし、手根管症候群末梢神経障害と診断される。	29	10~29
5	17~18	下膳をしている時に、右側にずれようと右足を出した時に右足に電気が走るような痛みを感じた。早退したが痛みが酷くなり、右膝内側半月板断裂および右膝窩筋損傷だと判明した。	63	50~99
10	15~16	訪問サービスでベッドメイキング時、慌ててしまい、転倒。右足薬指と小指にヒビが入った。	61	10~29
	10~	高校にて健診従事中、立ち上がろうとした際、意識消失し頭からうつぶせの状態		100

10	11	転倒した。（入院中）	49	～ 299
10	15～ 16	急きょ退所が決まった利用者が荷物を忘れて帰宅されたため、御家族様に連絡したところ、すぐに取りに来られた。急いで相談員室に荷物をとりに向かったが、あせって左足の踵に右足のつま先がひっかかり体勢を崩した。転倒を防ごうと咄嗟に右手を床についたが支えきれず転倒した。右手首外側に激しい痛みがあったため氷で冷やした。	56	50 ～ 99
11	8～9	お客様宅で食事介助を行う際に、椅子に座っているお客様に対し、スタッフ用の椅子はない為、テーブル横で立膝をついて、食事介助を行っていた。右膝に重心をかけた時に強い痛みが走り、その後、立位、歩行、屈伸等の動作を行うも激しい痛みがあった。右膝の曲げ伸ばしが出来ず、右足を引きずっての歩行になったので、当日にクリニックを受診した。	48	10 ～ 29
11	17～ 18	重度障害者のホームで支援業務中、利用者が玄関から外に飛び出し玄関横で寝そべったまま起き上がろうとしないので起こしてあげるために、同僚の支援員が上半身を持ち、被災者が足を持ち上げた時に、利用者が力を入れたのでその勢いで、被災者が体勢を崩してしまい利用者側に倒れ込んだ。すぐに湿布を貼り応急処置をして、その日は終了時刻まで仕事をした。その後痛みが治まらないため後日に受診した。	69	10 ～ 29
11	9～ 10	特別養護老人ホーム内での介護業務中、トイレ介助時に、屈んだ際、左膝に痛みがはしった。その後、入力介助時に入居者の足を洗う際、再度左膝に痛みがはしった。痛みが止まらないので、後日、病院を受診した。左膝外側半月損傷（疑い）と診断を受けた。	32	50 ～ 99
12	19～20	トイレ誘導時、入居者（男性・56kg）の脇をはさみ抱きかかえ、立ち上がってもらう際に右腕に痛みがはしった。	48	50 ～ 99

Return to : https://www.jisha.or.jp/international/topics/202206_11.html